

国際研修「紙の保存と修復」(⑤セ05-15-5/5)

目 的

近年日本の材料や道具が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に日本の技術や知識を伝える場が求められている。本事業では、文化財保存修復研究国際センター（ICCROM）、メキシコ国立人類学歴史機構（INAH）と研修を共催することで海外の修復関係者への技術移転を行う。

成 果

和紙を使用した紙文化財の保存修復に関する以下の研修を行った。

1. 国際研修「紙の保存と修復」(International Course on Conservation of Japanese Paper)
 - ・場 所：東京文化財研究所
 - ・期 間：2015（平成27）年8月31日～9月18日
 - ・参加者：10名（オーストラリア、ベルギー、ルーマニア、ブラジル、スリランカ、オーストリア、アイルランド、ロシア、オランダ、アメリカ合衆国）
 - ・内 容：〈講義〉「紙の基礎」、「日本画修復に使われる接着剤について」、「浮世絵版画の歴史と作品の保存状態について」等。〈実習〉卷子修復、和綴じ本製作、掛軸・屏風の取扱い等。〈視察など〉所内見学、岡墨光堂（選定保存技術保持団体認定団体国宝修理装こう師連盟加盟工房）等。
2. International Course on Conservation of Paper in Latin America
 - ・場 所：INAH・国立文化遺産保存修復機関（メキシコDF・メキシコ）
 - ・期 間：2015（平成27）年11月4日～20日
 - ・参加者：9名（ベリーズ、チリ、コロンビア、キューバ、メキシコ、ポルトガル、ウルグアイ、ベネズエラ）
 - ・内 容：(当研究所担当分)：〈講義〉「日本における文化財保存修復」、「和紙」、「日本で使用する接着剤」等。〈実習〉「装こうに使用する道具」、「糊炊き」、「裏打ち」、「補てん」、「仮張り」等。
3. 招聘
 - ・目 的：International Course on Conservation of Paper in Latin America に係る技術移転
 - ・期 間：2015（平成27）年3月7日～6月29日
 - ・招聘人数：1名

研究組織

○加藤雅人、山田祐子、楠京子、小田桃子、木原山奈々、後藤里架、山之上理加、嶋原由美（以上、文化遺産国際協力センター）、早川典子（保存修復科学センター）、鈴木絢香、小田切真梨（以上、研究支援推進部）



国際研修「紙の保存と修復」



International Course on Conservation of Paper in Latin America

在外日本古美術品保存修復協力事業では海外で所蔵されている紙本絹本文化財および漆工芸品のうち、修復が必要な作品の修復協力を行っている。また、日本の文化財に対する理解の深化、修復技術の移転の目的でワークショップを開催している。本事業の報告として、以下の報告書を刊行した。日本語・英語、2016年3月刊行。

- 「在外日本古美術品保存修復協力事業」(20ページ)
- 「在外日本古美術品保存修復協力事業 二十五菩薩来迎図」(84ページ)
- 「在外日本古美術品保存修復協力事業 源氏物語図屏風」(56ページ)
- 「在外日本古美術品保存修復協力事業 秋野蒔絵硯箱」(32ページ)
- 「在外日本古美術品保存修復協力事業 ワークショップ2014」(12ページ)

国際研修「日本の材料と技術による保存修復」(②セ04、⑤セ05の一環として実施)

本書は、平成27年度に東京文化財研究所文化遺産国際協力センターが実施した以下の国際研修、「紙本絹本文化財の保存と修復」(7月8日～17日、ドイツ連邦共和国・ベルリン)、「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」(11月4日～12日、メキシコ合衆国・メキシコシティ)、「漆工品の保存と修復」(11月13日～26日、ドイツ連邦共和国・ケルン)について、及び新規国際研修「染織品の保存と修復(仮称)」の為の協議を、記録したものである。日本語・英語、2016年3月刊行、329ページ。

